

死をタブー視しないコミュニティデザイン・プロジェクト

「igoku」とは、地域の高齢者が、慣れ親しんだ土地で最期まで暮らせる地域を目指す「地域包括ケア」を推進するため、「老いや死について語ることをタブー視しない」ことをテーマに取り組んでいます。

igoku

「いごく」とは？

※「いごく」=「動く」の意味。いわき訛り

死をタブー視しないコミュニティデザイン・プロジェクト

igokuとは、地域の高齢者が、慣れ親しんだ土地で最期まで暮らせる地域を目指す「地域包括ケア」を推進するための、いわき市による事業です。たださえ堅苦しい介護福祉系の事業なので、デザインの方でカッコよく、スタイリッシュに、そして面白く進めたほうがいいじゃね？ということで、市の職員と地元のクリエイターが謎のチームを組みました。

で、やってみたら……。

1.

魅力的なシルバーや、さまざまな取り組みを /

知る・場づくり

WEBのいごく



紙のいごく (季刊誌)



自治体メディアつばくなく謎のメディアが誕生。毎号、市長に怒られながらも老いや死をタブーにせずに取り上げ話題沸騰。



集会所の風景をレポートしたら各地の集会所が活性化



地域の集会所で振る舞われている食をフィーチャー



市内で開催するシルバーリハビリ体操、参加者数は年間延べ75,000人に！



著名写真家とのコラボ作品を誌面で展開し話題に



医療や福祉の担い手が、なぜか劇団を結成してしまう！

2.

面白く、笑顔多めに、死や老いを /

体験する・場づくり

いごくフェス開催



誰もが話題にすることを避けたい「死ぬこと」や「老いること」を楽しく、ふまじめに体験しちゃおうという「フェス」を毎年開催！



死後の世界から「生」を問い直す入棺体験



美しい思い出を残すシニアポートレート撮影会



ステージも大盛り上がり



即興演劇のテーマも「老いや死」



前夜祭では有名歌手もステージに



VR認知症体験では、認知症を「我がこと」として体験

3.

自治体とデザインチームが「地域」と出会い、様々な動き(いごき)が生まれています！



認知症解放宣言ポスター



コミュニティ食堂『いつだれキッチン』



青魚 × 医療 × 地域『あおいちプロジェクト』



活動を見学に来た他県の高校による『いごくフェス』

個人としても社会としても、最も大きな課題である「老・病・死」。地域にあるものを面白がって楽しんできたら、地域の人たちとつながり、新たな取り組みが生まれてきました。自治体がきっかけを作ったことで民間の事業所とデザインチームの連携も進み、「自治体 × 地域 × デザインチーム」の協働のまちづくりが根を張りつつあります。制御不能のいごき。これからも続けてまいります！

IGOKU IS OUT OF CONTROL...